

救援隊 力になりたい

消防、医療 次々現場へ



12日午前6時過ぎに総務省消防庁から派遣要請を受け、

東日本大震災

災害時の消防隊の活動を支援する「支援車」も初めて出動した。昨年末、津山圏域消

AMD Aのメンバーも

東日本大震災の発生から一夜明けた12日、県内から引き続き、救援隊が被災地へと向かった。情報が乏しく、交通手段がほぼ寸断された中、何とか支援の手が届けば。被害が広がりに続ける現地を案じる思いは増すばかりだ。(西山良太、保田達哉、鈴木裕、中村二郎)

待機していた県内14消防本部の隊員125人で結成した「緊急消防援助隊」が出発した。救急車や消防車など34車両で編成。中央自動車道をへて、現地向かった。

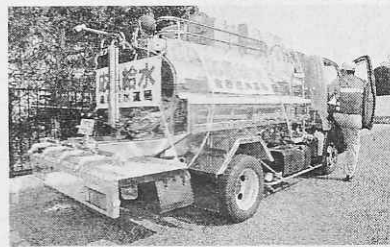
防組合に配備されたばかり。全長10・95メートル、高さ3・56

メートル、4・5メートルの器材を積める「大型キャンピングカー」。

発電機、シャワー、トイレ、簡易ベッド、ガスコンロなどを備え、最大定員26人。一部の隊員が寝泊まりしながら救援に当たる。



被災地へ出発した津山圏域消防組合の支援車。津山市林田(左)被災地へ向けて出発するAMD Aのメンバー2人。JR岡山駅



県の消防防災ヘリ「きび」も岡山空港から出動。岡山市水道局は、職員4人が飲料水3・7トンを積んだ給水車と四

被災地へ向かう倉敷市の給水車。市役所

輪駆動車の計2台に分乗して福島へ向かった。倉敷市も職員3人が水2トンを積んだ給水車1台で出動。津山、総社、美作、井原市も給水車を各1台出した。

災害派遣医療チーム「DMAT」は川崎医科大学付属病院や倉敷中央病院など4チームの計22人が出発した。12日午前、伊丹空港から若手県の花巻空港に到着。空港に開設された臨時医療施設や大船渡病院(岩手県)などで医療活動をしている。一足早く11日夜に車両2台で出発した岡山赤十字病院のチームも12日夕方、福島県の県立郡山高校に到着。救護所を開設した。

国際医療NGO「AMD A」(岡山市)の看護師石岡未和さん(30)と調整員の横山明子さん(31)も、JR岡山駅を出発した。

12日現在、被災地への経路が遮断されていることから、いったん新潟に入り、京都や静岡から派遣されたAMD Aの医師2人と合流。医療品や水、食料を調達するなど支援の準備を進めるといふ。

ニュージランド地震の被災地から4日に帰国したばかりの石岡さんは「被害が広範

囲に及んで、会話はまた把握できていない。余震も続き、予断を許さない。被害を受けやすい高齢者を中心に支援したい」と話していた。

募金は、郵便振替(01250・2・40709)、口座名「特定非営利活動法人アムタ」。

通信欄に「東北地方太平洋沖地震」もしくは「131」と記入する。AMD Aボランティアセンター(086・2552・7700)。